今日は！　你好（ニイ　ハオ）

私の留日感銘

医学系研究科博士課程四年
劉　剛　Liu Gang

▲平成３年10月20日　瀬戸大橋にて（左から２人目：真名志社長，右端：筆者）

▲平成６年７月21日　金沢市での国際胸部心臓血管外科学会にて
（中央右：松浦教授，中央左：著者）

一番よい選択……日本に留学すること

私は、中国江蘇省常熟市の第一人民病院で八年間一般外科や小児外科の臨床に従事し、一九九〇年から広島大学医学部第一外科で学んでいる留学生である。

私は日本に来る前、かつて一九四〇年代に日本への留学経験のある母から、折りにふれ日本の話を聞いていた。また近年来、医学雑誌や医学会等の刊行物から得られる日本の先進的な医学理論と科学技術等の面に深い関心があった。特に第二次大戦のため自国自身もひどい惨状であった日本が、どうして数十年後の今日、速やかに世界の経済的な強国に躍進したのか、その主たる原因は何であるか、ということについて非常に興味があった。

歴史を顧みると、日本は、もともと明治時代からすでに国民教育の普及に力を注ぎ、人材の育成を図り、さらに各分野に積極的な外国人顧問の招請、外国の技術や制度の導入、吸収に努め、国民が文明開化を旗印とした西洋文明を進んで摂取し、四〇年代に既に現代化の基礎を築いたのである。

戦後、日本の経済は、復興期を経てさらに高度成長期へと発展したが、その要因として、戦後の民主化改革、積極的な技術の導入、教育水準の向上、企業の積極的な投資、豊富な優れた労働力等があげられ、また、「先進国に追いつき追い越せ」という人々の心意気も無視することはできない。このように国民が一体となって頑張った幾十年の後、今日の日本が世界的な経済強国の仲間入りを果たしたのは、当然の結果と思われる。

私が日本を留学先に選んだのは、現在の日本の先進的な医学の理論知識と科学技術を学ぶばかりでなく、上述したような国民一致のひたむきな向

上精神を学ぶことも大切であると思ったからである。

他国の肉親の情
「旅は道連れ、世は情」の体得

九九〇年三月に初めて日本の土を踏んだ時、すぐ目に入ったのが、至る所にある漢字のポスターであった。その時思わず、中日両国の文化交流は「源は遠い　流れは長い」もの、と心からむくむくと親近感が湧いてきた。また、その現代化された交通と通信、随所に見られるきれいな環境にも深く感動させられた。

広島大学の第一外科で、指導教官の松浦雄一郎教授に挨拶した時、厳粛かつ真剣、温厚かつ善良な教授は私の日本での唯一の肉親である、と即刻確信した。事実は全くその通りで、教授と奥様は、この中国から来た若者に熱情あふれた歓迎会を開いてくださり、豊富な料理を御馳走になったり、カラオケで歌ったりして、全く肉親の雰囲気での一晩であった。また教授は忙しいところを会食後わざわざ居所まで送ってくださった。その時、私はまだ自分の感謝の気持ちを十分に日本語で言い表すことができなかったが、以来、教授のご厚情は常に心に銘記している。

広島大学医学部第一外科は、臨床と研究を一体に行っており、松浦教授の指導下で多方面の成果をあげ、特に人工心臓の研究面に独特な領域を開いている。私は、この心臓研究室で、先生方と一緒に研究してきた。最初、私は、心臓血管の病気と人工心臓との関連がよく分からなかったが、松浦先生の熱心なご指導で、次第に人工心臓と補助循環の研究に興味が湧いてきた。先生は、適宜に種々の刊行物や雑誌等を貸してくださるばかりでなく、また臨床にも参加、さらに全国各地、国内及び国際的な学会に出席するチャンスも与えてくださった。

私が広島に来て四年余り経過し、今年は大学院博士課程の最後の年である。すでに当初の研究目標を完了し、アメリカの医学雑誌に二篇発表した。これらの成果は、全く先生の正確なご指導のおかげである。加えて、先生は学術の面だけでなく、日本の日常生活や文化などの面にもなるべく多くの経験が得られるよう配慮してくださった。例えば、京都の国際学会の後、先生は友だちのように私と一緒に京都の各名勝地を巡り、日本古代の文化にも触れさせてくださった。先生のお心遣いには本当に感謝している。

私の四年間の広島の生活で、もう一人非常にお世話になった方があるが、それは私の今の大家さん、真名志輝雄社長である。社長様は勤労、善良、かつ正直な方で、そのアパートに住むタイや中国の留学生たちを自分の息子のように思い、毎日の生活に細かい心配りをしてくださった。また、私たちと一緒に宮島や瀬戸大橋を見学し、日本の文化や名勝の理解を助けてくださった。世界的に有名な瀬戸大橋は、テレビで見たことはあったが、実際に自分の目で確認できるとは思っていなかったので、真名志社長さんのお陰で実現し、感激も一入であった。

松浦教授と真名志社長さんを通して、日本人は情け深く、勤勉、かつ真剣で責任感の強い民族であることを再確認できた。日本人のこの精神は、どの国もどの民族も学習するに値するものだと思う。まさに、「旅は道連れ、世は情け」の諺を体得できた。

卒業してからの望み

私は、来年三月にはもう広島大学大学院医学系研究科を修了することになる。この四年間の研究を経て、ついに博士課程を完了するわけで、かなりの成果が得られたことは、松浦教授と真名志社長の至れり尽くせりのご厚情のお陰である。

私は帰国後、これからの生涯をかけて日本で学んだ先進的な医学理論と技術を人類の健康のために捧げ、また同時に、日本の文化、日本民族の勤勉さ、団結心、向上奮起精神を中国の若者に正しく紹介するつもりである。

中国と日本は一衣帯水の隣邦で、何千年にも亘る友好の歴史を持ち、共に平和を愛する民族です。これからも、私たち留学生の手でこの友誼の大橋を固めて子子孫孫に伝え、さらにアジア、ひいては世界の平和に貢献できるよう努めていきたいと念願している。

プロフィール

私の名前は劉剛で、〝三国志〟劉備と祖先が同じであるかもしれません。剛は〝強い〟という意味です。

一九五七年中国黒竜江省で生まれ、一九八二年佳木斯（じゃむす）医科大学を卒業しました。